

事業名

学習支援・部活動支援事業

目標

中学校支援活動場面の開発を目指して

1. 取組の視点

今年度から各校園に運営委員会が設置されることによりきめ細かな地域支援が可能になりました。しかし、相変わらず中学校への地域支援の場が環境整備にとどまっているのが現状で、直接的な支援が難しいです。理由としては、中学生ともなると教科や諸活動がより専門的になることや、進路獲得に向けての多くの課題が生じてくるからと考えます。そこで、中学生への直接的な支援と間接的な支援の在り方を探ってきました。

2. 取組の概要

まず、直接的な支援としては、グローバルな生徒の育成を目指して「土曜英会話講座」に外国人英会話講師を招聘し、指導ボランティアの力量の向上を目指しました。



生涯スポーツを目指した「ゴルフクラブ」「テニスクラブ」の開設。高校進学支援として、地域コーディネーター・ボランティアによる面接指導を実施しました。



次に、間接的な支援として、中学校が進めている生徒の学習能力を伸ばすための授業法「学びの共同体」システム導入について全面的に支援しました。東京大学大学院教授佐藤学氏の提唱する生徒たちの主体的な学びを醸成する小集団による「共同的な学び」を地域住民とともに講師を招聘して研修しました。

その他、各校園が主催する教育講演会を地域にも公開し、地域住民を巻き込み「地域の教育力」向上やコミュニティスクールを念頭に置いた取り組みとしました。



3. 成果と課題

①土曜英会話講座

3年間続けて参加している生徒は、11月の奈良公園での外国人観光客へのインタビューコンテストでもかなり積極的に活動できるようになりました。相手が話していることが「わかる」ためにもネイティブスピーカーとの活動が重要です。しかし、部活動や公式戦などの都合で欠席する生徒も少なくありません。

②生涯スポーツでは、小学校との合同活動や保護者参加の希望が出されるなど地域や学校に認知はあるものの指導ボランティアの確保が難しい状況です。

③進路獲得のための面接指導

2年目となり、面接者の守秘義務を徹底させおおむね好評を得ており、今後もこうした直接的な支援の場を拡大していきたいと思えます。

④教育講演会

来年度は校区学校園の全教員、保護者、地域住民を対象にした仮称「地域で学ぶ協働的な支援」と題して、実践発表と講演会を開催し、地域教育力の向上に努めていきます。

事業名

学び合い・主体的に生きていく生徒の育成

目標

計画的な研修により、授業改善を行うと共に、諸行事を通して主体性を養う。また、地域の組織力を活用して多くの体験活動を行う。

1. 取組の視点

研究授業・研究協議を通して授業改善を図り「学びの共同体」の授業形態を推進することで教員の教育力を高めます。そのためにも、すべての教員の授業を公開し、学校ホームページにも紹介して地域、保護者だけでなく多くの方々のご批評を受けます。

地域との連携を進め地域の教育力を学校教育に生かすとともに、地域の活動にも積極的に参加することで、地域と共に生きる学校・生徒を目指しています。

2. 取組の概要

授業改善において、先進校視察（5月に熊野市立木本中学校発表会1名、7月に大津の研修会7名、8月に伊東の研修会4名）で研究授業と研究協議に参加し、「学びの共同体」授業の理解を深めます。また、本校においても年8回の授業研究会（内4回はHPに掲載し他府県からも参加）を行い、多くの方々のご批評を受けることで教員の教育力の向上を図っています。



また、質の高い集団づくりを目指し、生徒総会で決まった年間スローガンの垂れ幕を生徒会が中心になって製作し、校舎の壁面につりさげ、全校がこの目標に向かって行動しています。

リーダー育成のために生徒会が中心になって、リーダー研修を年間2回実施しています。前向きな学校の雰囲気をつくり、生徒自治の基盤づくり

を目指し、まず生活の中の様々な場面での話し合いの仕方に重点を置いて取り組んでいます。また、リーダー研修会などでは、調理実習を地域の方々とともに行うことで、リーダーとしての自覚ややる気が目覚めました。

地域の環境整備のため地域本部校区ボランティアセンターと連携してクリーン作戦や秋篠川清掃活動などを行いました。さらに、地域教育協議会の「秋篠川共同体」構想の一貫である「ホタルの里」プロジェクトにおいて、学校で育てているホタルの幼虫の数を増やし、文化委員や有志による飼育や放流活動を行いました。



3. 成果と課題

・「学びの共同体」システムを導入して3年目になりますが、先進校視察・公開授業・授業検討会等を推進することで、生徒自身が「学び」を実感する授業が展開されてきています。

・「ホタルの里」プロジェクトにおいて、秋篠川にホタルを放流することができましたが

、さらに多くのホタルを放流するためにも、多くの方々の協力が必要であり、中学校としてもさらに連携を図っていく必要があります。



事業名

地域で子どもをはぐくみ、子どもで地域をつなぐ

目標

子どもたちが将来に夢を持ち、安全にのびのびと成長できるような近隣コミュニティづくりをめざす。

1. 取組の視点

地域で子どもをはぐくみ、子どもでつながる社会を目ざし、学校・保護者・地域が協力しながら活動していくこと、学校から地域へ情報発信することで学校力を高めていくことを目指しています。学校の活動に保護者や地域の方々の協力を得ることにより、日頃のコミュニケーションを取り



合う機会が増え、子どもや地域の方々、保護者とのつながりが深まっています。積極的に学校外に出て行く活動により、地域を知り、関わりを持つこと

により今まで学校外では挨拶もしなかった子どもたちも、関わりを持とうとする場面も多く見られ、より緊密なつながりが出てきています。

2. 取組の概要

学校と地域が協力しながら子どもを守り、育て、



生活環境・人的環境の整備をすることができました。学習支援活動では毎月の図書館支援・家庭科のミシン修理など子どもたちの

学習を支える活動や学習環境の整備をすることができました。新一年生の下校の引率・「西部図書館へ行こう」・校外学習など、学校だけではできない部分を協力してもらうことにより、行事や活動が円滑に進みました。学習支援で関わりを持つことにより子どもたちも親しみをもち学校内だけではなく日頃の見守り活動など学校外でも地域と関わりを持つことができました。また、音楽会や音楽の出前で地域の介護ホームや幼稚園・保育園との交流を通し地域とのつながりを深めることができました。

学校内の環境整備には PTA・地域と共に協力しながら取り組むことができ、校内環境美化を推進することができました。子どもたちには、花植えや環境整備などを通して、自然の大切さや命の尊さを考えさせるきっかけとなっています。ビオト

ープ作りを通し地域の秋篠川の環境問題にまで発展させた取り組み、ゴーヤのカーテンで環境問題や節電・芝生養生によりの温暖化の問題を考え、



地域の自然環境の学習へとつなげることができました。

各学年の栽培活動を活性化することができ、教科学

習と関わらせながら年間を通した取り組みをすることができました。子どもたちが世話をした野菜を収穫し、大変さとともに喜びを感じ収穫祭をすることができました。また、企業の食の出前授業と関連づけることにより、食の大切さや食についての考えを深めることができました。



はぐくみ活動の一環として、土曜活動、夜の天体観測では保護者・子ども、たくさんの参加があり、



地域が一体になって楽しく過ごすことができました。また、学校の参観・懇談時に幼児の保育なども計画していただき、

保護者は子どもを預け、心置きなく参加することができました。幼児・保護者、地域との交流もでき、保護者への啓発にもつながりました。

3. 成果と課題

今年度は学校全体の活動に取組を広げ、地域との関わりを大切に進めてきました。学校行事など多岐にわたり、協力体制を作っていただき学校や保護者だけではできない部分をずいぶん支援していただき有難かったです。子ども・地域・保護者・学校がつながりを持ち、子どもたちを育てていこうとする状況が今まで以上に感じられます。今後、保護者の積極的な参加を促していくことがますます必要になってくると考えています。

事業名

やさしさ発見 やさしさ実感プラン

目標

教育環境を整えることによって、子どもたちの心に、互いに慈しみ合う優しさを醸成する。また、飼育・栽培活動をとおして命の大切さを実感させる。

1 取組の視点

本校児童は明るく元気ですが、自分の気持ちや感情の表現が未熟なために、人間関係をうまく築けず、少人数のなかよしグループを形成する傾向が見受けられます。時にはいじめたり嘲笑したりといった課題が深刻化することもありました。

そこで、芝生広場や水生生物コーナーを学校環境として整備するとともに、学校図書館の環境をも整えることによって豊かな情操をはぐくみ、子どもたちの心に慈しみ合う気持ちを培いたいと考えました。児童の身近に生き物の存在する環境をつくり、責任感や自尊感情をはぐくむとともに、命について考える場としていきたいです。このような環境づくりを通して豊かな心の育成をめざしていきたいと考えています。

2 取組の概要

- **ミュージカル劇鑑賞**：地域教育協議会とPTAの支援によって「アラジンと魔法のランプ」の鑑賞が実現しました。児童は、平城西幼稚園児、保護者や地域の方々とともに楽しいひと時を過ごすことができ、心に残る鑑賞会となりました。
- **平城西水族館**：児童昇降口前に、水槽を並べて、水生生物を飼育しています。毎日観察しながら会話する児童の姿があります。今年度は、ニッポンバラタナゴの里親となり、環境学習に取り組む4年生を中心に、全校で見守り飼育していこうと、関心が高まっています。



- **読書環境の整備**：保護者を中心としたボランティアが3回にわたってブッカーシールかけと、蔵書の補修に取り組んでくださいました。児童も委員会活動で補修作業を行い、学校図書館を整備しました。また、学級文庫にはリサイクル本を入れて冊数を増やし朝読書の活動の充実を図りました。
- 幼小連携の取組や環境学習など、幼児期からスタートする平城西小学校区の世界遺産学習の充実に取り組んでいます。

3 成果と課題

- ・ 芝生広場や平城西水族館は、維持管理を継続中です。また、4年生は秋篠川や校区のクリーン作戦に取り組み、地域とのかかわりの中で学習活動を展開することができました。



- ・ 読書環境の整備は徐々に定着し、児童の関心も高まっています。朝の読書活動も定着してきています。
- ・ 水族館の設置と読書環境の充実は、子どもの情操教育に役立っていると、保護者や職員の評価が高いです。
- ・ 本年度は、生活科や総合的な学習の時間における出前授業の回数が増え、子どもたちの学習活動に対する意欲を高めることができました。
- ・ 演劇鑑賞を地域とともに実施できたことは、情操教育の一環として有意義でした。今年度の1回で終わることなく、継続実施を目指したいと考えています。

事業名

みんなあつまれ つるまいなかよしっ子

目 標

地域の子どもは地域でつながる

1. 取組の視点

幼児の育ちは幼児を取り巻いている環境が大きく影響しています。地域の子どもは地域にある幼稚園を中心に保育園や小学校との交流・連携をすすめ、活動の場を広げています。一人一人が安定して遊べる環境の確保と共に友達とかかわれる場や機会がもてるような環境の工夫をします。また、未就園児なかよし組に3・2歳児を受け入れ活動の幅を広げています。在園児親子や未就園児親子が仲良くつながり、園と家庭と地域が連携して交流を重ねています。

2. 取組の概要

地域の子どもは地域でつながることを目標に保育園・幼稚園・小学校との連携を図り、未就園児を含めた地域ふれあい活動も二年目になりました。園内環境の見直しを図り、園庭の花壇や畑での栽培活動を通して豊かな感性が育ち、自分の思いを表出し、自己実現する力も培っていくことができました。保育園とは交流を進める中で砂場や遊具で一緒に遊びました。作品展を見てもらい、自分の作った作品を説明したり一緒に話したりと楽しいひと時を過ごすことができました。

小学校との連携では細かな年間計画を立て、小



学1・2年生と手をつないで大淵池公園に春と秋に園外保育に出かけました。地域のボランティアの方の見守る中安全に遊ぶことができました。秋祭りに参加してお兄さんお姉さんと触れ合いを楽しむことができました。幼稚園児がスムーズに小学校生活に入れるよう交流を重ねてきました。小学生の優しさに接し、滑らかな接続へつながる一歩となりました。

未就園児は年間計画のもと、親子で在園児と交流をして一緒に遊び、幼稚園生活を知ってもら

い機会となりました。土曜参観で保育参観の後、講師の先生を招いて親子で3B体操をしました。親子で身体を動かす楽しさを味わうことができました。



ふれあい観劇会では未就園児・評議員や地域の方を招き、人形劇を鑑賞しました。音楽鑑賞会では大学生のお兄さんお姉さんに吹奏楽を演奏してもらいました。知っている歌を口ずさんだり、手拍子を打ったり楽しい体験ができました。柔道教室・お話の会・音楽紙芝居と地域の方々と身近な環境にかかわり、感動体験が積み重ねられました。人とかかわりを通して、人の優しさや温かさに触れ、身近な人への親しみや信頼の気持ちが育ってきました。



3. 成果と課題

園児たちは保育園児・小学生・未就園児とたくさんの友達や地域の方と交流することができました。いろいろな人との触れ合いや交流を計画的、継続的に積み上げてきたことで、幼児の生活の幅を広げ、豊かな心に触れ、人とかかわる喜びや楽しさを味わい、感動体験を共有することができました。いろいろな遊びに親しみ体験を通して、幼児の心が豊かになり、意欲的に活動する姿につながりました。今後も保育園・小学校や地域との交流を計画的に位置づけていきたいです。

事業名

みんなでつくろう楽しい幼稚園

目標

地域の教育力を生かし、様々な体験を通して豊かな心と健やかな体を育てる
親子・地域が共に楽しめる園づくり

1. 取組の視点

自然環境の減少や核家族化が進み、幼児が身近な自然や様々な人とかかわる機会が減ってきています。そのため、体力やコミュニケーション力の低下、基本的な生活習慣が身につけにくいなどの姿が見られます。本園では5つの視点を定め、様々な形で、地域の方々の協力をいただきながら、幼児の豊かな心と健やかな体育で、保護者に向けた子育て支援を目指し取組を推進してきました。

2. 取組の概要

○地域の様々な人との交流

未就園児いちご組、一年生との交流、地域の方との昔遊び、ふれあい秋篠との交流を通して、子ども達は地域の人に親しみの気持ちをもつとともに、地域のよさや自分とのつながりを感じ始めています。



○幼児の体力向上

「体を動かすことが好きな子に」を目標に、ゲストティーチャーを招き、親子体操教室や年5回の幼児体操教室を実施しました。子どもたちの生き生きとした姿に感動したという保護者の声が聞かれ、体力向上への意識が高まりました。

○親子で楽しめる感動体験の積み重ね

未就園児、園児親子対象に、カプラワークショップやオカリナコンサート、フィールドビンゴ、地域の方を迎えて南京玉すだれ鑑賞会を実施しました。たった一枚の小さなカプラが、子どもたちだけでなく大人までも夢中にさせ、みんなの創

造力をかきたてました。間近で聴くオカリナの音色、南京玉すだれ鑑賞会では、実際に玉すだれや皿回しを体験させてもらい、本物に触れ、その感動を親子で共有することができました。



○子育て支援の充実

保護者向けの講座（エコライフ・体操教室・絵本の選び方・講演会・お茶講座）を開催し、地域の方にも講座に参加していただく中で、子育てについてのアドバイスをいただくなど「地域で子どもを育てる」体制づくりのきっかけとなりました。

○園内の環境整備・保育環境の充実

地域の方や保護者の協力を得て、園内の環境整備を実施しました。また、たくさんの絵本と出会えるよう絵本の充実に努めました。保護者ボランティア協力のもと絵本の整理、分類、ブックカバーかけなどを行い、いろいろなお話に親しむとともに、親子の触れ合いにも繋がっています。



3 成果と課題

保護者や地域の方々からの園に対する支援が広がりつつあります。また、地域の教育力を生かし、親子とも心に残る体験を積み重ねることができ、幼児の豊かな心と健やかな体育で繋がりました。今後も園と地域が協同して園の活性化を図り、地域の実態に応じた特色ある取組を展開しながら、「地域で子どもを育てる」体制づくりを推進していきたいと思えます。